

震災から3年経過 防災を考える

- ① **避難準備情報**
災害が発生するおそれが高まった場合に発令しますので、高齢者や障がいをお持ちの方など避難に時間を要する方は早めの避難をしましょう。
- ② **避難勧告**
災害が発生するおそれがより高まった場合に発令しますので、すみやかに避難しましょう。
- ③ **避難指示**
避難勧告よりも災害の緊急性や危険性が高い場合に発令しますので、ただちに避難しましょう。

ラジオやテレビなどの情報に注意しましょう



動きやすい靴を履き、避難経路は高い場所を選びましょう



2人以上での行動を心がけ、隣近所で協力して避難しましょう



自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除き控えましょう。

平時時の心得
ハザードマップには、災害発生時に避難できる場所や危険区域が示されています。避難場所や危険区域などを事前に確認しましょう。どこに避難すればいいのか、安全に避難するにはどのようにすればいいのかを家族で話し合います。



ハザードマップは3月下旬から順次、市内の全世帯に配布します。



地域の皆様の 声を取り入れ より実践的なハザードマップを作成

ハザードマップとは、発生が予想されるさまざまな災害（洪水や土砂災害など）に対し、危険区域や避難に関する情報を冊子にまとめたもので、いつ災害が発生しても落ち着いて対応できるよう、平常時から備えていただくために使うものです。今回のマップ作成にあたり、それぞれの地域の皆様からお聞かせいただいた過去の災害情報と、洪水対策支援システム（降雨条件等から浸水エリアの予測ができるシステム）を活用して洪水氾濫のシミュレーションを行うなど新しい試みを取り入れました。ぜひ、この機会に「防災」について考え、「いざ!」という時のために備えておきましょう。

マップの一例

マップの利用方法

- ご家庭や職場などの場所をマークし、その付近の危険区域や避難場所を確認しましょう。
- 避難する際の経路などを平常時から各家庭などで話し合しましょう。

注意事項

- 想定以上の災害も考えられますので注意が必要です。
- 地盤の高さが変化した場合、想定した範囲や浸水深が実際と異なる場合があります。



ハザードマップを活用しましょう



今回新しくなったハザードマップは、市民の皆様が災害から身を守っていただけるよう、洪水や土石流、がけ崩れのおそれのある区域を示したほか、地域別ワークショップでの皆様の声を反映しています。また、指定避難所についても災害別に安全性を確認しています。

ハザードマップを平常時からご活用いただき、自助（自分の身は自分で守る）や共助（地域のことは地域で守る）の意識向上に役立てていただきたいと思います。

問合先 | 危機管理室 ☎35-3345

普段からの備えのために ~非常持ち出し品~

非常時に必要なものを事前に確認し、いざという時に備えましょう。水や食糧のほか、医薬品や衣類などもあらかじめ準備しておきましょう。

なお、土砂崩れなど、身の危険を感じたら非常持ち出し品などの物にこだわらず、ただちに避難してください。



普段からの備えのために ~高山防災ラジオ~

早めの情報入手が災害から身を守るうえで重要です。高山防災ラジオは自動でスイッチが入り、緊急地震速報や災害に関する緊急情報を受信できます。

お求めは最寄りの高山電機商業組合加盟店までお願いします。

